徳島市　庄・蔵本遺跡
埋蔵文化財調査発掘調査実績報告書

徳島大学薬学部医薬資源教育研究センター

1997年10月30日

徳島大学埋蔵文化財調査委員会
徳島大学埋蔵文化財調査室

目次

1　調査地の名称

2　調査地

3　調査期間

4　調査面積

5　調査体制

6　調査経過

7　発掘調査の成果

8　庄・蔵本遺跡薬学部地区発掘調査のまとめ

第１図　庄・蔵本遺跡の位置
第２図　薬学部医薬資源教育研究センター調査地
第３図　薬学部医薬資源教育研究センター遺構平面図（１）近世
第４図　薬学部医薬資源教育研究センター遺構平面図（２）古墳時代

図版１　調査区全景：近世暗渠：近世耕作痕
図版２　第９層 SD04･05 SK02：SD04内土師器出土状況：第10層出土鉄器

1　調査地の名称

庄・蔵本遺跡

徳島大学薬学部医薬資源教育研究センター地点

2　調査地

徳島市庄町１丁目７８番地の１

3　調査期間

平成７年６月２１日～９月５日

4　調査面積

約300m²

5　調査体制

調査主体　　徳島大学埋蔵文化財調査委員会

委員長　武田克之（徳島大学長）

発掘担当　　埋蔵文化財調査室　室長　東潮

調査員　　橋本達也

調査補助員　上田淑子　新谷多賀子　北條ゆう子　山本愛子

6　調査経過

当該調査地に最も近い既調査地には長井記念ホールがある。この長井記念ホール建設に先立つ埋蔵文化財発掘調査では特筆に値する遺構は確認されていない。よって当該調査地でも遺構密度の低いことが予測されたが、試掘調査の結果、良好な包含層の遺存と弥生から古墳時代と想定される溝状遺構の可能性のある落ち込みを確認した。よってこの時期の遺構・遺物の包含さている可能性が考えられ、発掘調査の対象とすることとなった。

また、試掘調査の結果、医薬資源教育研究センター建設予定地の東半部は大規模な攪乱が行われていることを確認し、調査区を建設予定地の西半部に限った。しかし、調査を進める過程で、東へ向かって延びる古墳時代溝を確認したため、その広がりを確認するため、あらためて調査区を東へ５ｍほど拡張した。

［試掘調査］　本調査に先立って、幅1.2mで東西・南北二本の試掘坑を調査区中央に設定し、重機にて掘削、人力で精査を行った。その結果、包含層の存在を確認した。

［発掘調査］　重機掘削：G.L.-900mmまで重機で掘り下げた。

人力掘削：重機掘削後、さらに深さ約900mmを層位ごとに掘り下げ。基本土層１～１４層を確認した。そのうち12層まで人力掘削、さらに西壁沿いの一部に南北と直交する東西のトレンチ設定し、13、14層を確認した。）

7　発掘調査の成果

［基本土層］　調査地周辺の現標高は、およそT.P.3.60mである。調査の対象とした近代造成土

下の標高はT.P.3.00m前後である。また調査最終面の標高T.P.2.20m前後である。いずれの層も10～20cmの厚さで水平に堆積している。

第１層：淡黄色粘土。南壁付近の一部にのみ残存。兵舎造成以前近代。畑作層と考えられる。
第２層：灰色ｼﾙﾄ質粘土。水田層。
第３層：浅黄色粘土。上面に上層鋤痕。水田・畑作層
第４層：明黄褐色粘土。水田層
第５層：にぶい黄色粘土。上層に下層鋤痕。水田・畑作層
第６層：明黄褐色粘土。鉄分層。水田層と考えられる。
第７層：灰オリーブ色ｼﾙﾄ質粘土。調査区全体に存在。水田層と考えられる
第８層：灰オリーブ色ｼﾙﾄ質粘土。７層とは薄い鉄分で分かれる。９層上面の凹凸を埋めるように部分的に存在。水田層と考えられる。
第９層：黄褐色ｼﾙﾄ質粘土。
第10層：オリーブ褐色粘土。
第11層：黄褐色ｼﾙﾄ質粘土に灰オリーブ色ｼﾙﾄがブロック状に混ざる。
第12層：黒褐色ｼﾙﾄ。
第13層：オリーブ褐色ｼﾙﾄ。第14層とともに部分的にトレンチで確認。
第14層：オリーブ黒色ｼﾙﾄ。

調査内容：第１層～１３層まで掘り下げ。第１・３・５・９・１０・１２の各層で遺構を検出した。

層序	時期	概要
第１層	近代	畑状小区画･柵跡･杭列跡
第３層	近世	道･溝･暗渠･耕作痕跡（上層鋤痕）
第５層	中世～近世	耕作痕跡（下層鋤痕）
第５～８層	古代	溝：ほか遺構には伴わないが土師器・須恵器などの遺物が多数出土
第９層	古墳時代	溝･土坑：溝の内外から古墳時代前期の土師器多数出土
第10層	弥生～古墳時代	柱穴（掘立柱建物）：鉄製品・石鏃など出土
第12層	弥生時代	溝状落ち込み：弥生土器片

［遺構各説］

SD06･07＜第３層＞第3図：　近世の溝で南北に延びる同時併存の平行する２本の溝である。ともに溝幅は40～50cmを測る。両溝の間の幅30～50cmで南北に延びる空間部が道になり、田畑を東西に区画していたと考えられる。

暗渠＜第３層＞第3図･図版1右：　近世－田畑の床土下層部分に水はけをよくするために埋設

した施設である。従来、庄・蔵本遺跡では農耕関連施設として幅20cmほどの溝の中に石もしくは竹を埋設した暗渠が知られていたが、今回初めて下層に竹、上層に石の両者を併用した暗渠が確認された。南北方向に走る暗渠が4本確認された。

鋤痕＜第3・4層＞第3図･図版1下：　中世～近世－二毛作に伴う畑作の鋤痕跡であると考えられる。ほとんどの鋤痕は南北方向をとっていた。

SD01･02･03＜第7層＞：　古代とかんがえられる。直線的な東西方向の浅い溝で土地区画境溝の可能性がある。3本とも同規模で重複することから、すべて同じ機能をもつ一本の溝の掘り直しの可能性が考えられる。

SD04･05､SK02＜第9層＞第4図･図版2上：　古墳時代の溝と土坑。SD04は南西から北東へ徐々に幅を広げつつ延びる溝である。最も狭いところで1.3m、広いところでは3.0mに達する。内部からは、ほぼ完形品(図版2中)のほか、破片の土師器多数を検出している。

SP01･02･03＜第10層＞：　古墳時代以前で弥生時代と考えられる柱穴3基を確認した。掘立柱建物と考えられる。周囲からは土器片のほか鉄器片(図版2下)も出土した。

8　庄・蔵本遺跡薬学部地区発掘調査のまとめ

医薬資源教育研究センター地区の調査では近世の農耕関連遺構のほか、古墳時代の溝・土師器とそれ以前の弥生時代と考えられる柱穴・鉄器などを確認した。

徳島大学構内の庄・蔵本遺跡ではこれまでに主として眉山に近い南側において、大学教育研究施設の建設が行われ、その事前調査で弥生時代前期を中心として、古墳時代や中世を含む多くの遺構・遺物が確認されている。

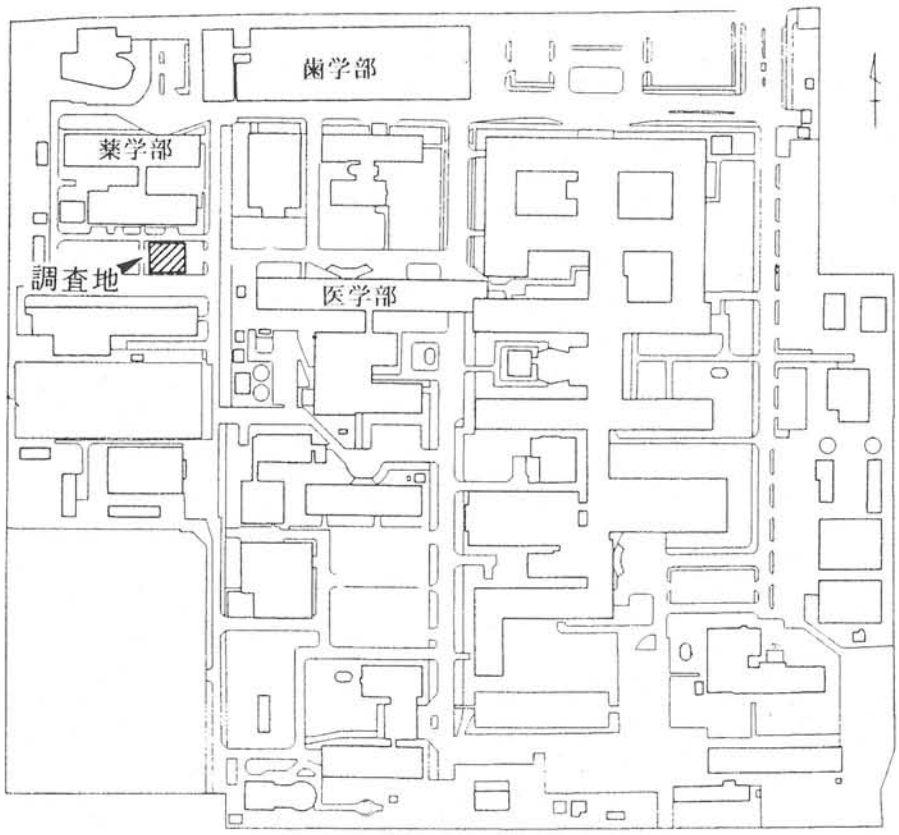
一方、薬学部地区は庄・蔵本遺跡の中では北西部に当たり、これまでに埋蔵文化財の調査は平成2年に長井記念ホール建設に先だって試掘調査がなされたのみである。ここでは遺構が確認できず本格的な発掘調査にはいたらなかった。ただし、ごくわずかながら、この試掘の際にも土師器細片が出土している。

医薬資源教育研究センター地点の調査は、薬学部地区の調査としては2件目にあたる。この2件の調査の成果をあわせ考えると、庄・蔵本遺跡北東部においては遺構密度は高くはないものの、古墳時代集落の外縁として生活痕跡である遺構・遺物が残されている可能性が高い。また本地区内に弥生時代の大規模な集落などは考えにくいとしても、庄・蔵本に住んだ弥生人の生活圏に含まれている可能性は高い。今後も、弥生・古墳時代の生活圏の一部としてとらえ注意する必要があるだろう。

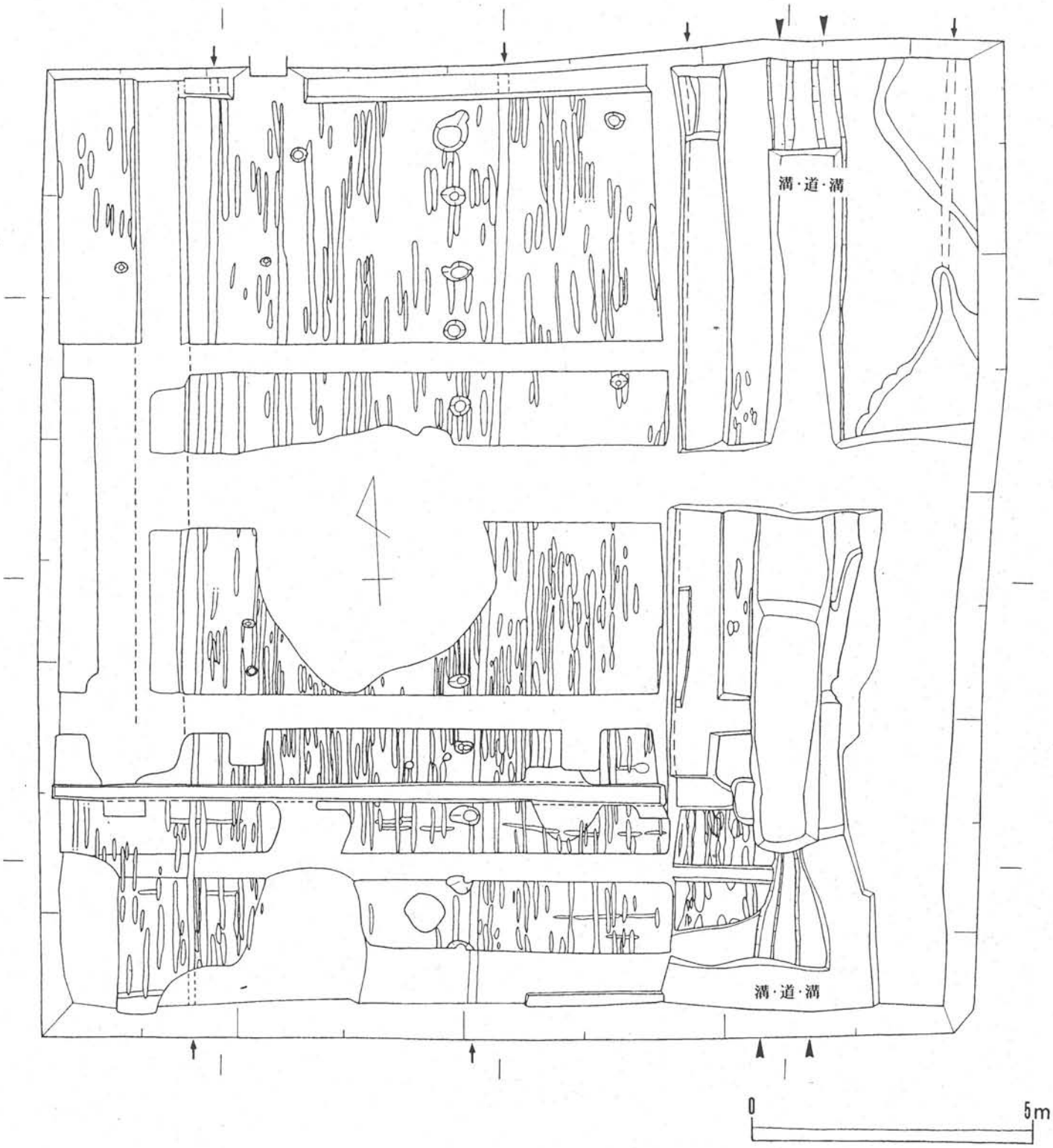
また、薬学部地区は庄・蔵本遺跡の中では、一段低い沖積地として古代以降、近世にいたるまで長期にわたり水田として利用されたと考えられる。各時期に削平・整地がなされているであろうが、水田・畑作関連の遺構が近世のみならず、古代・中世においても確認される可能性が高い。眉山山麓の微高地と、東から北へ回り込む鮎喰川の沖積低地の境部に位置する微地形の状況から考えれば、さらにさかのぼって古墳・弥生時代の水田遺構が確認される可能性もあるだろう。

なお、医薬資源教育研究センター地区の調査では、土層差が微妙で、遺構の検出が非常に難しい場合が多かった。試掘で土層断面にかかりながらも本調査を行うまで気付かなかった情報も多く、今後の調査においても土層観察には慎重を期す必要がある。

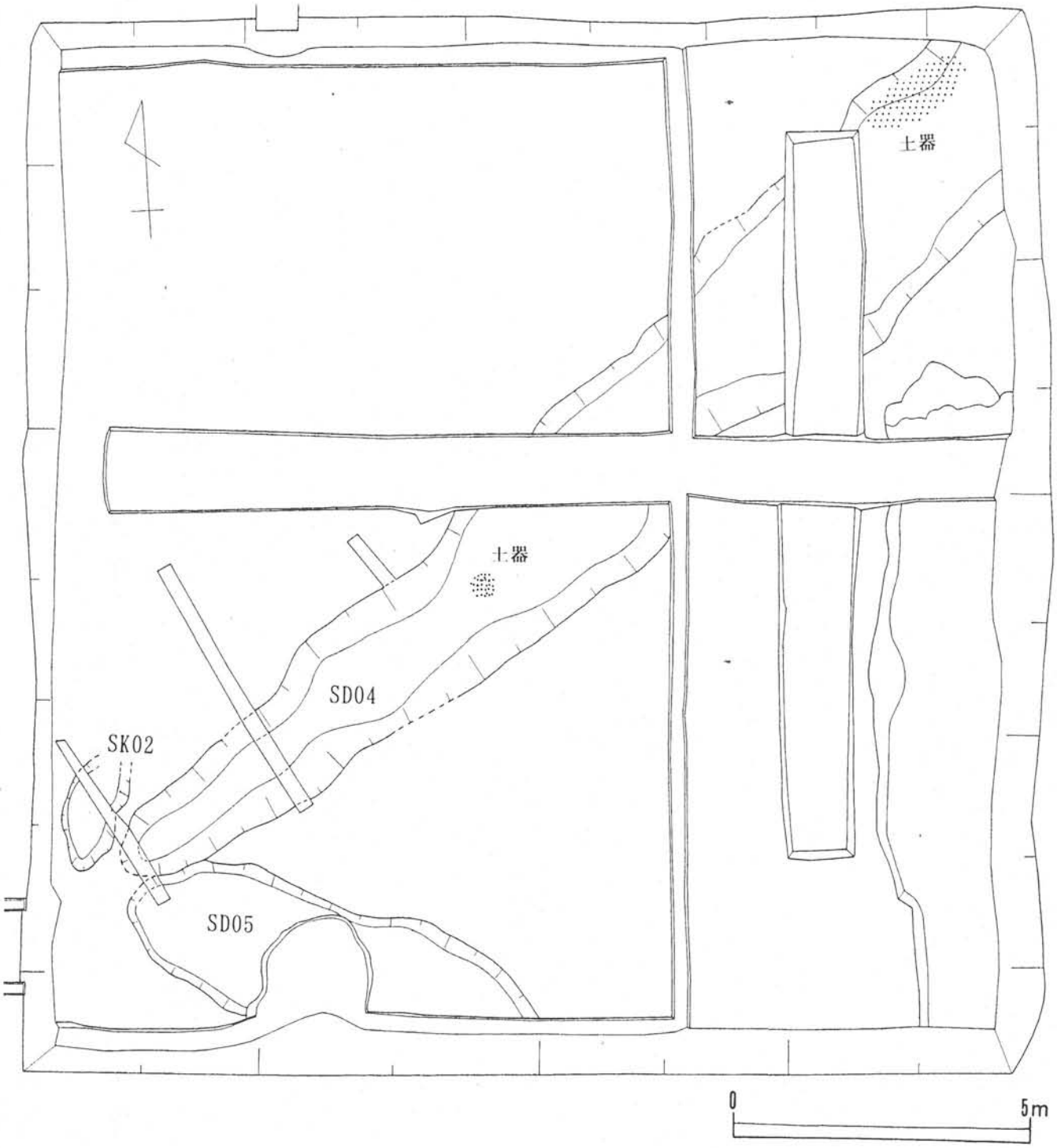
第１図　庄・蔵本遺跡の位置



第２図　薬学部医薬資源教育研究センター調査地



第３図　薬学部医薬資源教育研究センター棟
遺構平面図（１）近世
↑は暗渠

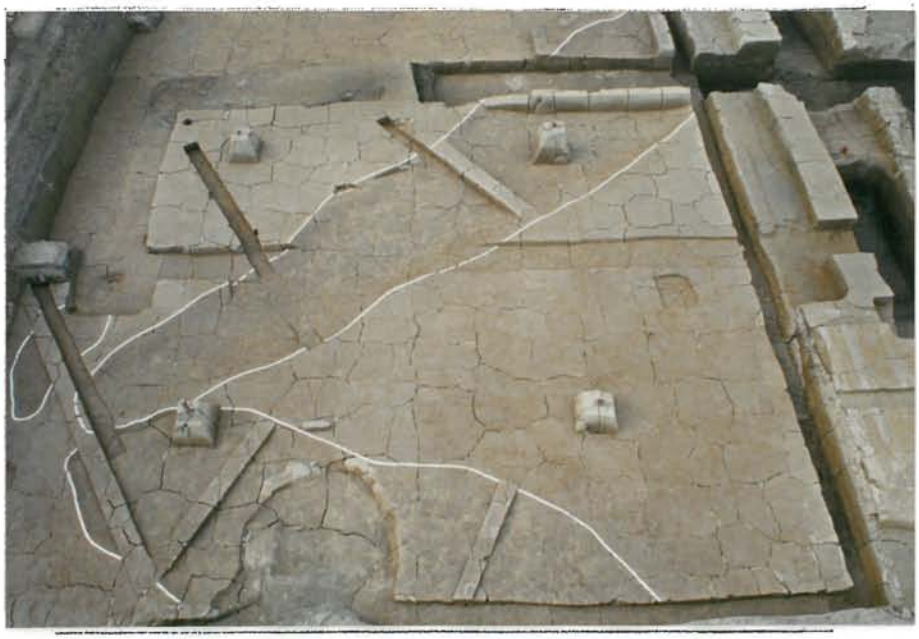


第４図　薬学部医薬資源教育研究センター棟
遺構平面図（２）古墳時代

調査区全景（北東より）

近世暗渠

近世耕作痕跡



第 9 層　SD04･05　SK02

SD04 内 土師器出土状況

第 10 層出土鉄製品